

2026年卒学生の就職戦線の見方や就活準備状況は、先輩たちに比べてどのように変化しているだろうか。キャリタス就活・学生モニターを対象に、11月後半時点での就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。同時期に実施した過去の調査結果とも比較しながら特徴を分析したい。

1. 就職戦線の見方

- 先輩たちより「厳しくなる」74.7%。前年調査(63.4%)より10ポイント以上増加
- 早期化の加速を警戒する学生が目立つ。採用規模の縮小を懸念する声も

2. 11月後半時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」34.2%、「なんとなく決まっている」45.6%
- 1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「インターネットサービス」、3位「銀行」

3. 企業選びのこだわり度合い

- 「給与・待遇」「勤務地」に強くこだわる学生が前年より増加

4. 就職活動の中心におく予定の企業の規模

- 「業界トップの企業」19.8%、「大手企業」43.7%。大手志向の学生は今年も6割を超える

5. 就職活動の開始時期

- 「3年生の4月」の集中度が高まった(30.8%)。活動開始の早期化が見て取れる

6. 就職活動の準備状況

- 11月までの就活準備は「自己分析」82.0%、「業界研究」「企業研究」73.5%

7. インターンシップ等(※)の参加状況

- 「1日以内のプログラム」平均7.8社参加。「5日間」は1.5社、「2週間以上」は1.1社
- 大半が参加後のフォローを経験。フォローによって志望度が上がった学生は6割強
- 早期選考の案内を受けた場合「志望度にかかわらず早期選考を受ける」は2割未満(19.1%)

8. 今後のインターンシップ等への参加予定

- 全体の8割超(82.6%)が参加の意向を示す。参加したい時期は「12月」「1月」の順に多い
- 「社員と交流できるもの」「業界や企業の概要を理解できるもの」に参加希望

9. 年内の活動(準備)の進め方・方針

- 「早期選考を受けたい」65.6%、「インターンシップ等にたくさん参加したい」58.3%の順

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた

調査概要

- 調査対象：2026年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数：1,054人(文系男子208人、文系女子498人、理系男子212人、理系女子136人)
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2024年11月15日~22日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2026
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

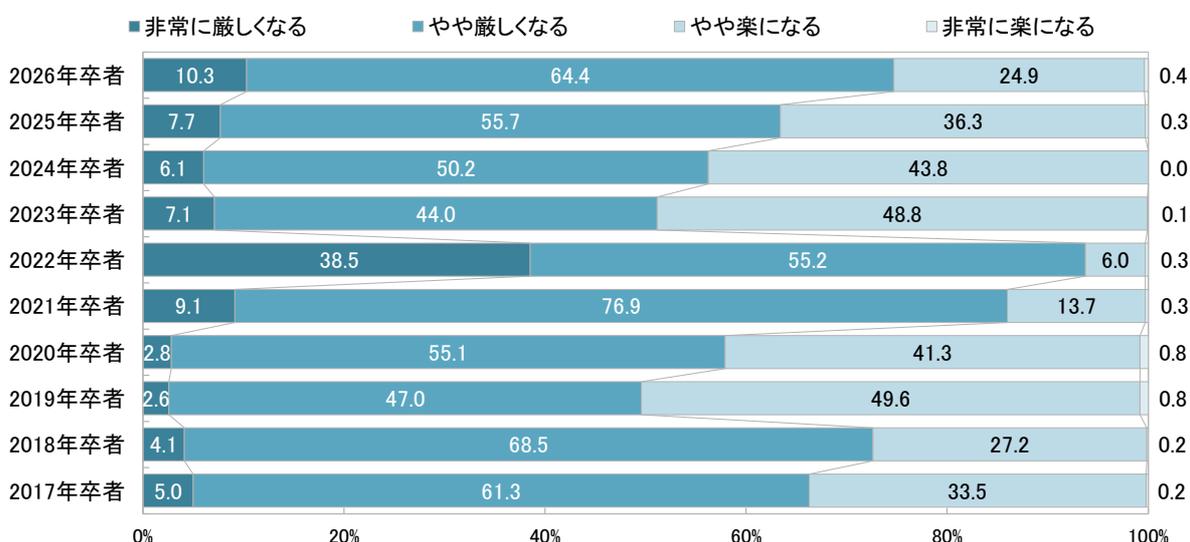
1. 就職戦線の見方

2026年卒予定の就活生は、自分たちの代の就職戦線が1学年上の先輩たち(2025年卒者)に比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「やや厳しくなる」という回答が6割強で最も多く(64.4%)、「非常に厳しくなる」(10.3%)を合わせて7割以上が厳しくなると予想(計74.7%)。前年調査(計63.4%)を11.3ポイント上回る。「厳しくなる」の合計は3年連続で増加した。

寄せられたコメントを見ると、厳しくなると回答した学生の多くが「早期化」に言及。先輩たちよりも就職戦線がさらに早まると予想し、そのスピードについていけるのかと心配する学生が目立つ。また、インターンシップ経由での採用が増えた場合に、プログラムに参加できなかった企業の就職難易度が上がるのではと不安視する声も散見される。コロナ禍の反動による需要が一服すると見て、採用規模の縮小を懸念する声も寄せられた。

楽になると見ている学生からは、人手不足による売り手市場の継続を挙げる声が依然多い。実際、インターンシップ等に参加する中で、企業の人材確保に積極的な姿勢を感じ取る学生も見られた。

<就職戦線の見方>



■「厳しくなる」と見る理由

- 就活が早期化する中で、少しの油断や遅れが全体として非常に大きな差へとつながっていく。 <文系男子>
- 早期化が激しい。夏、冬のインターンシップに参加しないと内定が難しい企業が多いと考えられる。 <理系女子>
- 早期化がより進み、出だしが早い学生はついていけるが、前年のペースで始める学生には厳しくなるのではないかと思う。 <文系男子>
- 人手不足の状況は変わらないが、トランプ政権が始まり、国内市場が厳しい方向に少し変化するのではないかと考えているから。 <文系女子>
- コロナの影響がない学年ゆえに、より充実したガクチカが求められる。 <理系男子>
- 25卒はコロナ禍の反動で需要が急増していたが、その流れが少し落ち着くと予想されるため。 <理系男子>

■「楽になる」と見る理由

- 人手不足の深刻化。こだわりさえなければ、内定はもらえると考え。 <文系男子>
- 少子化による人材不足で、企業の審査基準が緩くなっているのではないかと。 <文系女子>
- インターンシップに参加することができれば、そのまま内定につながる可能性が大きくなる。 <文系男子>
- 理系を必要とする会社は増えている上、事業拡大で採用を増やす事例があるため年々楽になっていると考える。 <理系男子>

2. 11 月後半時点の志望業界

志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が3割強 (34.2%)。「なんとなく決まっている」(45.6%) を合わせると約8割に上る (計79.8%)。「決まっていない」という回答は2割程度 (20.2%)。文系に比べ理系の方が決定している学生が多く、特に理系男子は過半数が「明確に決まっている」と回答した (52.8%)。

「なんとなく決まっている」と回答した学生も含め、志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねると (40業界から選択)、全体で最も多かったのは「情報処理・ソフトウェア」(19.0%)。ここに「情報・インターネットサービス」(18.6%) が続き、前年に引き続き今期も序盤からIT人気が目立つ。3位は「銀行」(18.5%) で、前年の5位から順位を上げた。文系男子で1位、文系女子で2位と、文系学生からの支持が高い。一方で、IT業界は文理問わず上位に位置し、属性によらず志望者が多い。

理系の上位には、ITのほかに製造業が多く入り、とりわけ理系女子は1位から3位までを製造業が占める。

< 志望業界の決定状況 >

(%)

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	34.2	35.8	34.6	25.1	52.8	37.5
なんとなく決まっている	45.6	43.1	41.8	49.4	39.2	52.9
決まっていない	20.2	21.1	23.6	25.5	8.0	9.6

< 志望業界 (上位 15 業界) >

※5つまで選択 (%)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト②	19.0	銀行 30.8	マスコミ 23.7	情報・インターネットサービス 27.7	素材・化学 30.9
2 情報・インターネットサービス ①	18.6	調査・コンサルタント 19.5	銀行 17.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 24.6	水産・食品 30.1
3 銀行⑤	18.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 18.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 15.6	電子・電機 21.0	医薬品・医療関連・化粧品 28.5
4 水産・食品 ④	16.4	情報・インターネットサービス 17.6	官公庁・団体 14.6	素材・化学 17.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 20.3
5 マスコミ⑥	13.5	建設・住宅・不動産 16.4	商社(総合) 14.3	機械・プラントエンジニアリング 14.9	情報・インターネットサービス 19.5
6 調査・コンサルタント⑦	13.3	水産・食品 15.1	情報・インターネットサービス 14.3	自動車・輸送用機器 16.9	電子・電機 14.6
7 素材・化学 ②	12.7	官公庁・団体 14.5	水産・食品 12.7	医薬品・医療関連・化粧品 14.9	建設・住宅・不動産 13.0
8 建設・住宅・不動産⑩	12.4	商社(総合) 13.2	ホテル・旅行 12.4	通信関連 13.8	官公庁・団体 12.2
官公庁・団体⑪	12.0	保険 11.9	エンターテインメント 11.9	水産・食品 11.8	エネルギー 8.9
10 電子・電機⑧	12.0	証券・投信・投資顧問 11.9	教育 11.3	建設・住宅・不動産 11.8	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 8.9
商社(総合)⑬	11.8	マスコミ 11.9	調査・コンサルタント 11.3	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 11.8	調査・コンサルタント 8.1
12 医薬品・医療関連・化粧品 ⑨	11.8	エネルギー 11.8	人材サービス・人材紹介・人材派遣 10.8	調査・コンサルタント 10.3	通信関連 8.1
13 エネルギー⑪	10.4	通信関連 8.8	商社(専門) 10.2	エネルギー 10.3	通信関連 8.1
14 通信関連 ⑬	9.0	運輸・倉庫 8.2	商社(総合) 8.2	エネルギー 9.2	商社(総合) 7.3
15 保険⑰	8.4	運輸・倉庫 8.2	保険 9.7	鉄鋼・非鉄・金属製品 9.2	農業・林業・鉱業 7.3
		信用金庫・労働金庫・信用組合			機械・プラントエンジニアリング 6.5
					精密機器・医療用機器

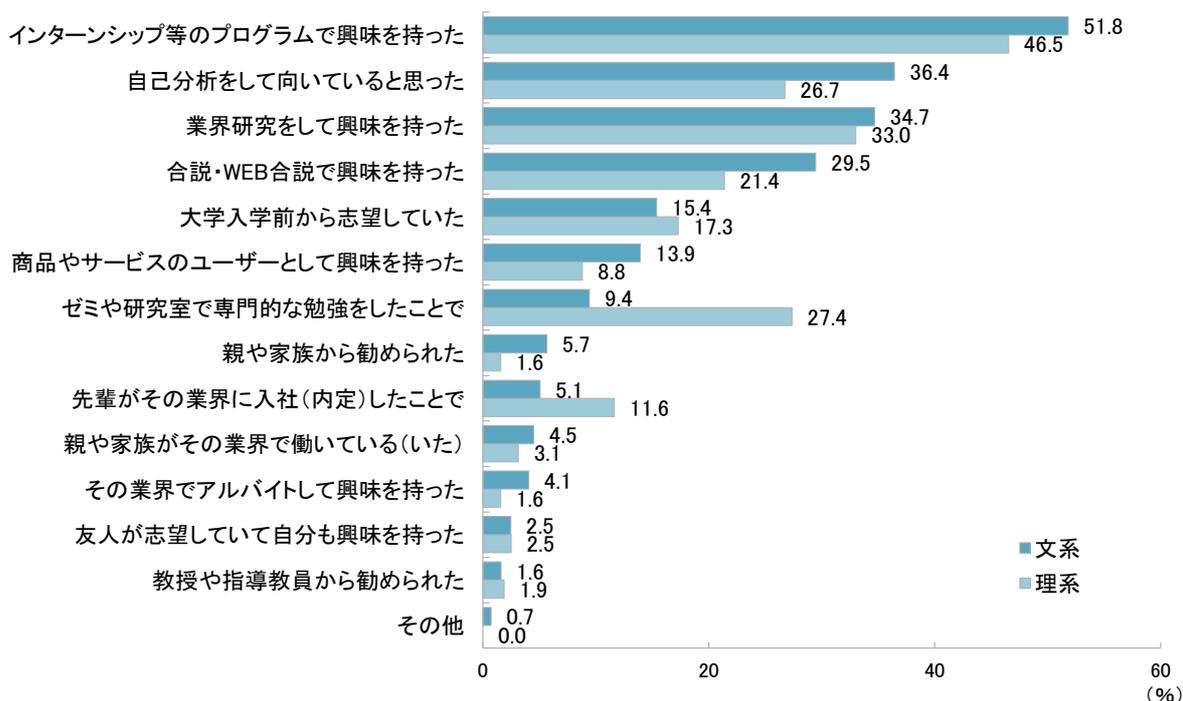
※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

現時点で第 1 志望としている業界について、志望するに至ったきっかけを複数回答で尋ね、文理別に比較した。

文理とも「インターンシップ等のプログラムで興味を持った」が最も多く、文系学生の過半数(51.8%)、理系学生は 4 割強が選んだ(46.5%)。プログラムへの参加を通して自分の志向や適性を知り、志望業界として意識する学生が多いようだ。文系は「自己分析をして向いていると思った」(36.4%)、「業界研究をして興味を持った」(34.7%) が 3 割台で続く。

一方、理系は「ゼミや研究室で専門的な勉強をしたことで」が文系より 20 ポイント近く高いのが目立つ(27.4%)。理系は研究分野の専門性を生かした就職を考える学生が多いことがわかる。

<第 1 志望の業界を志望するに至ったきっかけ>

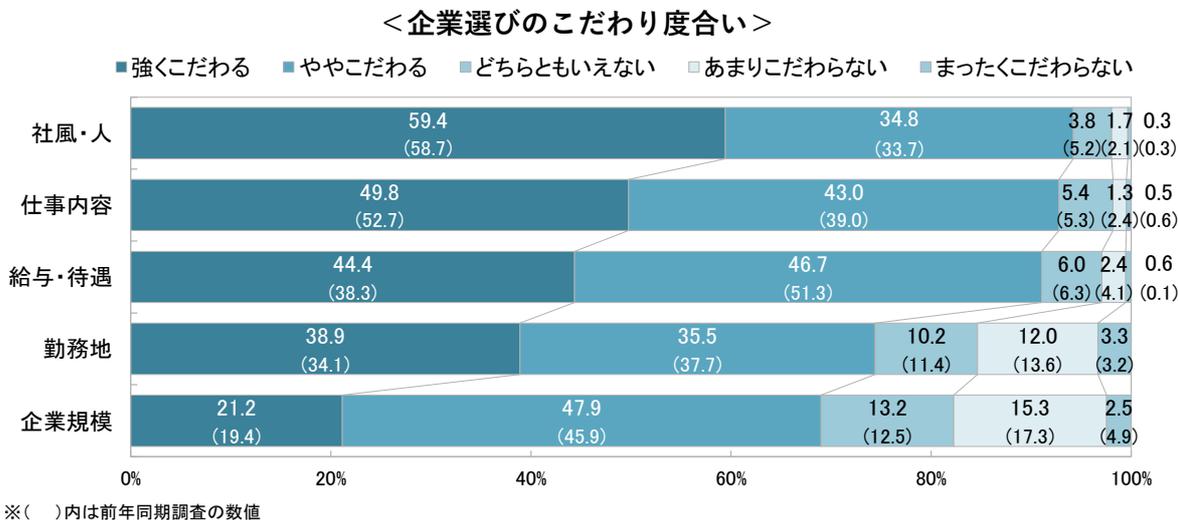


■志望するに至った具体的なきっかけ

- 自分がプログラミングを勉強していることや、インターンを受けていくことでインターネットサービスが持つ影響力を知ったから。 <情報・インターネットサービス/文系男子>
- インターンシップに参加している学生や社員の方の人柄が自分に合っていると感じたこと。 <銀行志望/文系女子>
- 以前から食に携わる仕事に就きたいと思っており、自己分析をする中でその思いが強まった。 <水産・食品志望/理系女子>
- 大学でゴミ問題について研究する中で問題の深刻さと幅広さを実感し、インターンシップではプラントのスケールの大きさを実感した。 <機械・プラントエンジニアリング志望/理系男子>
- 就職サイトの適職診断で向いていると表示されて、興味を持ちました。 <運輸・倉庫志望/文系女子>
- 大学の専攻が生きる業界を志望している。 <鉄鋼・非鉄・金属製品志望/理系女子>
- コンサルタントとして働いている人や、内定を貰った先輩などとお話して、向いていると感じたため。 <調査・コンサルタント志望/文系男子>
- なんとなく受けた説明会で、仕事内容や人柄に惹かれて業界研究を進めた結果、この業界で働きたいと思った。また合同説明会の座談会で外商の仕事を知り、やりたいと思ったこともきっかけ。 <百貨店志望/文系女子>
- 先輩が受けた企業について一通り説明を聞いて、その中から業界を選んだ。 <自動車・輸送用機器志望/理系男子>

3. 企業選びのこだわり度合い

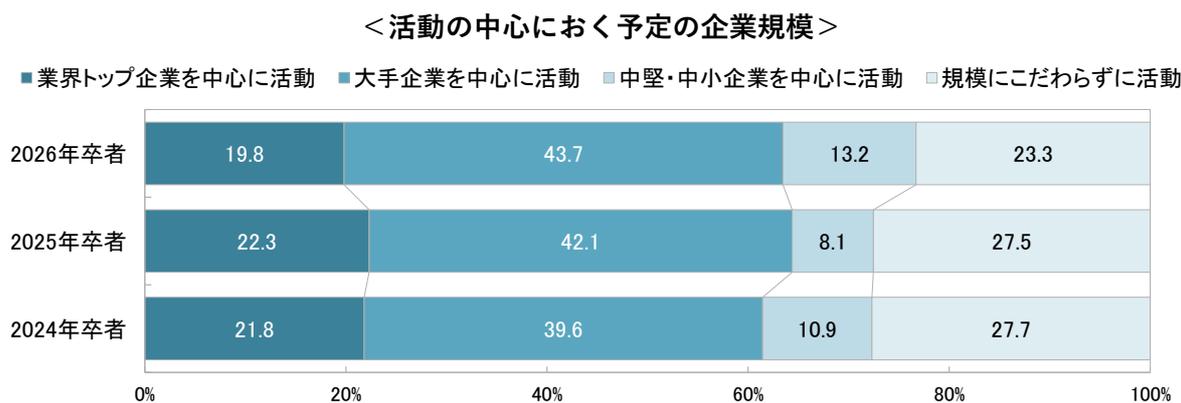
会社選びの軸として学生がよく挙げる 5 つの項目について、こだわりの度合いを尋ねた。「強くこだわる」が最も多いのは「社風・人」(59.4%)で、「ややこだわる」(34.8%)をあわせると 9 割を超える(計 94.2%)。前年との比較に目を向けると、「給与・待遇」「勤務地」(38.9%)などで「強くこだわる」という学生が増えた。



4. 就職活動の中心におく予定の企業の規模

就職活動の中心におく企業の規模を尋ねた。「業界トップの企業を中心に活動するつもり」19.8%、「大手企業を中心に活動するつもり」43.7%で、いわゆる大手志向の学生は今年も 6 割を超える(計 63.5%)。上述の「企業選びのこだわり度合い」において、企業規模に強くこだわる学生は約 2 割だったが、大手企業を活動の中心に据える学生は多い。

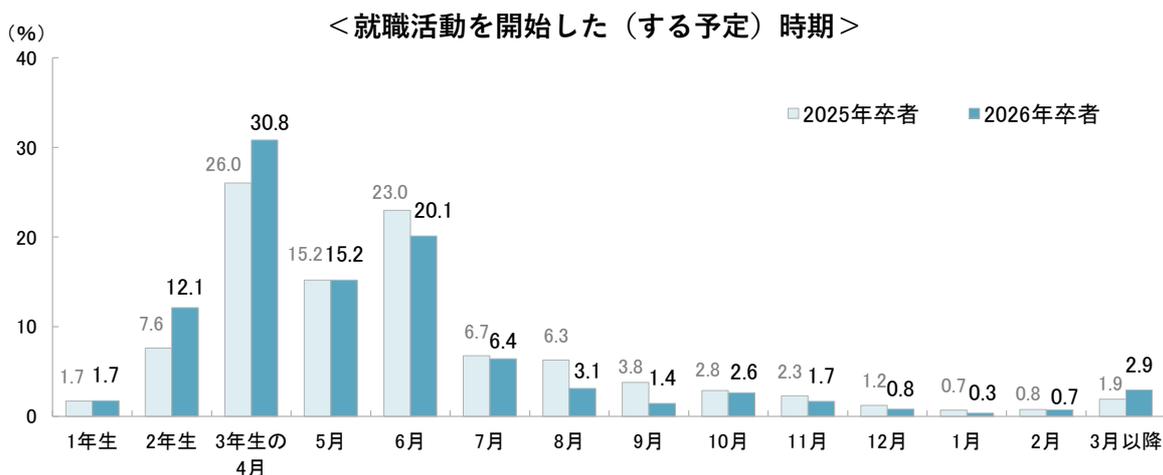
一方で、中堅中小企業を中心に置く学生の割合が前年より増えた(8.1%→13.2%)。競争の激しい大手を避けたり、全国勤務のない地元企業で働きたい等の声が寄せられた。



- 業界の前線に立って、自分が日本を引っ張って行きたいから。 <業界トップ/文系男子>
- その業界で生き抜けるだけの成長性を持っているため。 <業界トップ/理系女子>
- 社会的インパクトが大きく案件が大きいから、成長環境も整っているから。 <大手企業/文系男子>
- 安定や給与水準の高さ、福利厚生の実度合いがあると思ったため。 <大手企業/理系男子>
- 地元で根ざした企業で働きたいから。 <中堅中小/文系女子>
- 企業規模よりも、そこでどのような経験を積めるかが大事だから。 <規模にこだわらない/文系男子>

5. 就職活動の開始時期

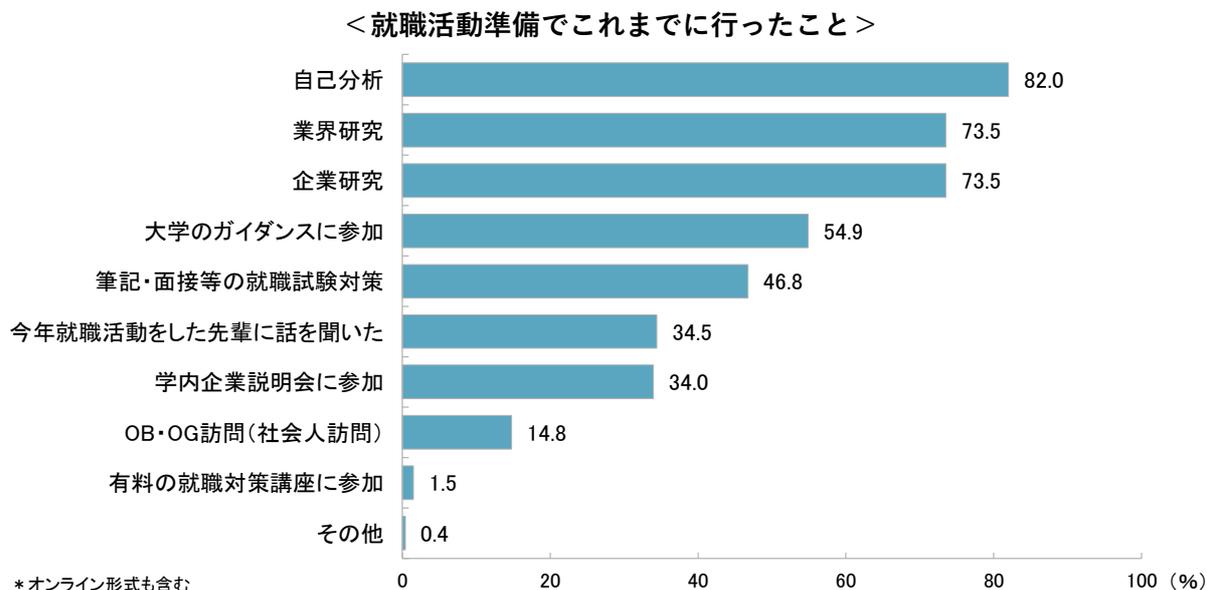
就職活動を開始したと思う時期を尋ねた。「3年生の4月」が最も多く(30.8%)、前年調査(26.0%)よりも集中度が増し、進級と同時に就活をスタートさせる動きが強まった。また、「2年生」の時に開始した学生も増え、1割を超えた(12.1%)。大学のガイダンスを機に自己分析や情報収集を始めたり、夏季インターシップ等のプログラムへの参加に備えて早めに準備に取り掛かったりする傾向が強まったようだ。なお、3年生の6月以降は軒並みポイントが下がり、活動開始の早期化が見て取れる。



※大学院生は、3年生=修士1年生として回答

6. 就職活動の準備状況

就職活動の準備として行ったことを尋ねたところ、最も多いのは「自己分析」で約8割(82.0%)。「業界研究」「企業研究」が7割台で続き(ともに73.5%)、インターンシップへの応募準備や実際にプログラムに参加することなどで、着実に就活準備を進めていることがうかがえる。「大学のガイダンス」は半数強が参加(54.9%)。「筆記・面接等の就職試験対策」は4割以上が回答し(46.8%)、選考対策が進んでいる様子も見て取れる。



* オンライン形式も含む

7. インターンシップ等の参加状況

インターンシップやオープン・カンパニー等のプログラムへの参加状況を日数別に尋ねた。「1 日以内のプログラム」に参加経験を持つ学生が8割強(83.0%)。「2~4日間のプログラム」は約半数(51.7%)が参加している。

参加社数は、「1 日以内のプログラム」が平均 7.8 社、「2~4 日間のプログラム」が 2.7 社で、前年よりそれぞれ増えた。「5 日間程度」(1.5 社)と「2 週間以上」(1.1 社)はいずれも前年並み。短期間のものへの参加が中心だ。

< インターンシップ等経験率 >

(%)

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	83.0	86.0	82.7	85.9	76.9	82.4
2~4日間のプログラム	51.7	54.7	54.8	51.0	50.0	47.1
5日間程度のプログラム	26.7	28.9	24.0	23.9	35.4	31.6
2週間以上のプログラム	6.8	9.5	3.8	4.0	14.2	14.7

< インターンシップ等参加社数/平均 >

(社)

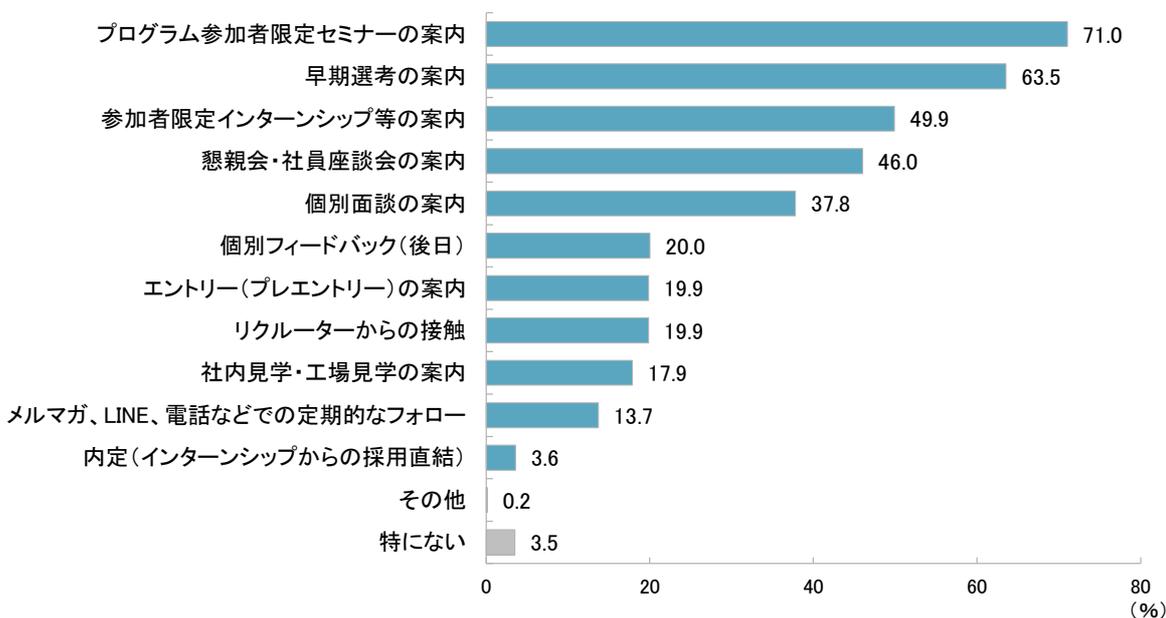
	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	7.8	7.4	7.7	9.0	5.9	6.8
2~4日間のプログラム	2.7	2.5	3.0	2.7	2.5	2.0
5日間程度のプログラム	1.5	1.5	1.5	1.5	1.7	1.4
2週間以上のプログラム	1.1	1.1	1.3	1.1	1.1	1.1

※それぞれの参加者が分母

参加経験のある学生(全体の87.9%)のうち、参加後に企業からフォローを受けた学生は9割強に上る(96.5%)。受けた内容として最も多いのは「プログラム参加者限定セミナーの案内」(71.0%)で、プログラム参加後も継続して自社を知ってもらう機会を用意する企業が多いことがうかがえる。「参加者限定インターンシップ等の案内」(49.9%)や「懇親会・社員座談会の案内」(46.0%)も4割台に上り、理解を促す内容のフォローが広く行われていることがうかがえる。

一方、「早期選考の案内」は63.5%で、6割以上がプログラム参加企業から本選考の案内を受けたと回答した。

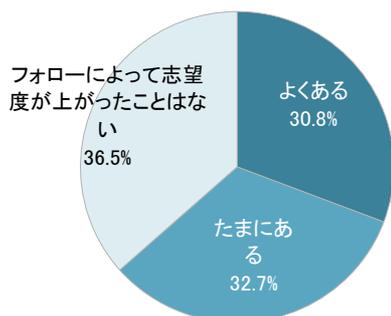
< インターンシップ等参加後に企業から受けたフォロー >



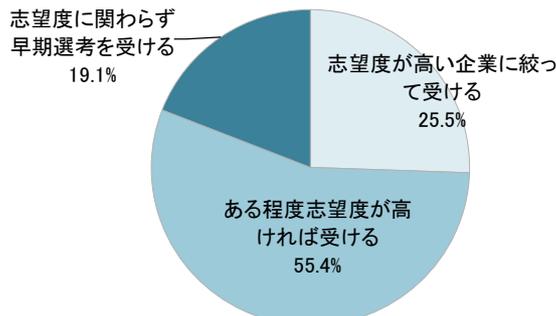
参加後に受けたフォローによって、その企業への志望度が上がった経験を持つ学生は、「よくある」(30.8%)、「たまにある」(32.7%)を合わせて6割強に上り(63.5%)、フォローによる志望度向上に一定の効果があることがわかる。

また、早期選考の案内を受けた場合の方針を尋ねた。「志望度にかかわらず早期選考を受ける」は2割未満で(19.1%)、志望度によって受ける企業を選ぶ学生が大半だ。参加者を選考応募につなげるためには、プログラム期間中や参加後のフォローにより志望度を上げることが重要と言えるだろう。

<フォローにより志望度が上がった経験>



<参加企業からの早期選考>



■志望度や関心度が上がったフォロー

- 参加者限定のフォローアップイベントがあり、さらに企業への理解を深めることができた。 <文系女子>
- 後日、私のことをしっかり評価してくださった趣旨のメールが送られてきたこと。 <理系男子>
- 座談会などで実際に働いている方の話を聞けると社風などが分かり志望度が上がった。 <理系女子>
- 働いている方の話を聞くことができた。その企業の将来性を知ることができた。自分がやりたいことができる企業が見極めることができた。 <文系女子>
- 1対1で対面での面談をしてもらった。自社のことを知ってもらいたいという気持ちが伝わり志望度が上がった。 <理系男子>
- プログラム内での取り組みを評価された結果として限定イベントに招待された企業に対しては、自分の強みを活かせるのではないかと感じ、志望度が上がった。 <文系女子>
- セカンドインターンや早期選考の案内をもらった企業は、より熱心に情報収集を行い、志望度を上げた。 <文系男子>
- 参加後に個別でリクルーターの方から面談のメールをいただき、親身に相談に乗ってもらえて、志望度がさらに高くなった。 <文系女子>
- 1対1の座談会では、自分に寄り添って下さっていると強く感じることができ、大変有難かった。 <文系男子>
- 実際の勤務地などを見学することができ、働く像がより明確になってよかった。 <理系男子>

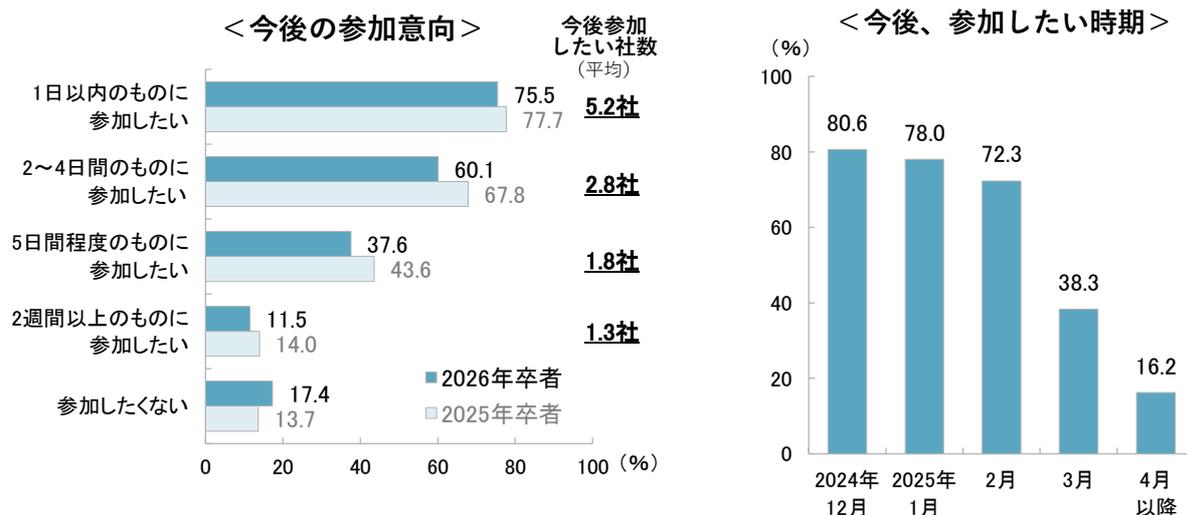
■早期選考の案内を受けた場合の方針

- 志望業界であれば受ける。今後も入社を検討していきたい。 <理系女子>
- 業務内容や社員の方の印象で判断する。参加後のフォローアップの有無も判断基準としてある。 <文系男子>
- 志望度が低い企業を受けたとしても、面接に十分な熱量をもって臨めないと感じる。 <文系女子>
- インターン参加後に良い印象を持ったか、自分に合っていないと感じたかを基準に選定する。 <理系男子>
- 今現在、就職活動に不安を感じているため、自分の経験のためや安心感を得るために、志望度にかかわらず受けようと考えている。 <文系男子>
- 選考時期が、研究活動に支障がなければ受けたい。 <理系男子>
- 内定の数を確認したいため、多少興味があれば受けるようにしている。 <文系男子>

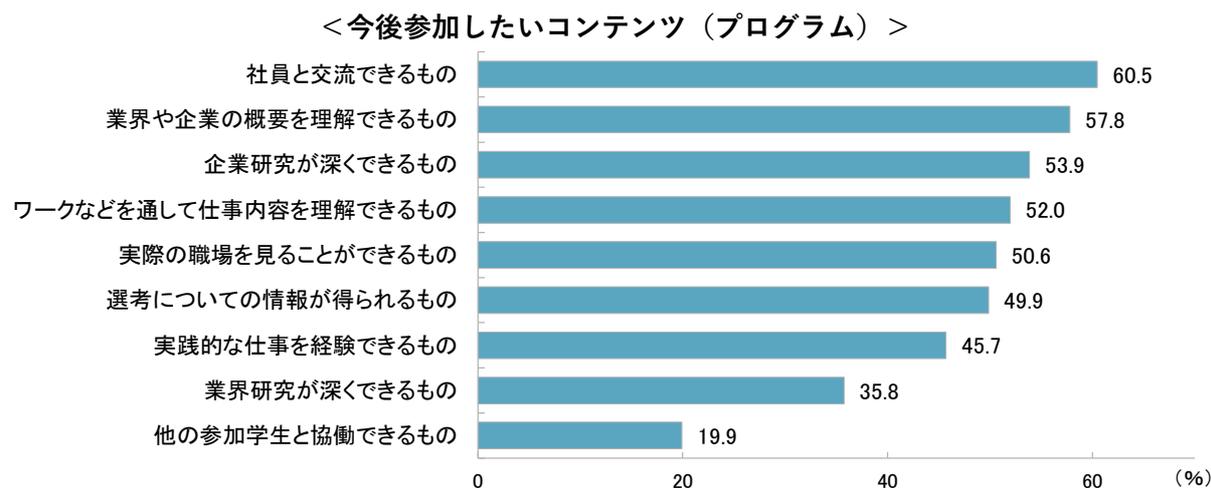
8. 今後のインターンシップ等への参加予定

今後については、「参加したくない」と回答した学生は17.4%で、大半が参加の意向を示している(82.6%)。特に「1日以内のもの」は7割強に上り(75.5%)、「2~4日間」は6割(60.1%)。いずれの日数も前年同期調査をやや下回るが、早くから多くのプログラムに参加してきた影響とみられる。

参加したい時期は「12月」(80.6%)が最も多く、次に「1月」(78.0%)が続く。「2月」(72.3%)も多くの学生を選び、就活解禁の3月に向け継続的に参加していきたいという意向が読み取れる。



どのような内容のプログラムに参加したいかについては、「社員と交流できるもの」(60.5%)が最も多い。「業界や企業の概要を理解できるもの」(57.8%)や「企業研究が深くできるもの」(53.9%)などが5割台で続く。企業風土や仕事への理解を深められるものへの関心は総じて高く、志望企業についてより深く理解したいという意向の一方で、まだよく知らない業界や企業についてまずは概要を抑えたいという様子もうかがえる。



■具体的な希望や条件など

- 社風を感じられる、実際に働く際のイメージが明確になるもの。 <理系女子>
- 仕事について深く理解できるインターンや社員の方々からお話を聞きやすいプログラム。 <文系男子>
- 実際に社員の方が働いている現場を見学したいので、オフィス見学や工場見学をしたいです。 <文系女子>
- 業界研究や会社概要など幅広く説明してくれるもの。 <理系男子>

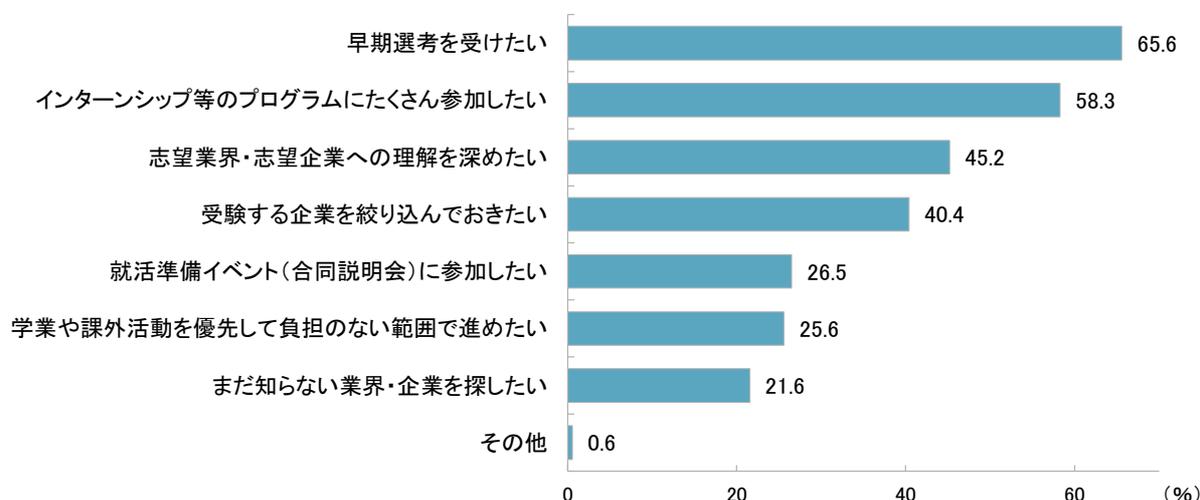
9. 年内の活動（準備）の進め方・方針

2024年内の就活準備について方針を尋ねた。最も多いのは「早期選考を受けたい」で、6割強の学生が選択した（65.6%）。本格的な就職活動が始まる前に、選考経験を積んでおきたいと考える学生が多いことがわかる。中には本命企業の選考が始まっているという学生もいるようだ。

次いで「インターンシップ等にたくさん参加したい」が5割強で続く（58.3%）。「志望業界・志望企業への理解を深めたい」（47.0%）、「受験する企業を絞り込んでおきたい」（45.7%）までが4割を超えており、ある程度志望業界や企業を定めた上で、より深く理解していききたいという意向がうかがえる。

意中の企業の内定獲得に向け準備に取り組む一方で、「就活準備イベント（合同説明会）に参加したい」（26.5%）、「まだ知らない業界・企業を探したい」（21.6%）など、就職活動が本格化する前にもっと多くの企業に出会いたいと考える学生も一定数見られる。

<年内の就活（準備）の方針>



■年内の就活（準備）の方針

- 多くの企業と触れる機会を設けることにより、志望先を絞るための情報を得たい。また、インターンや早期選考に参加して実績を得たい。 <理系男子>
- 早期内定につながるインターンに参加する。業界の視野を広げるために、第一志望業界以外の会社にも参加する。 <文系女子>
- 志望企業がある程度決まっており早期選考を受けるつもりだが、志望業界についての理解を深めたいためインターンシップには今後も参加する予定。 <理系男子>
- 今まで通り、企業や業界の情報を集め続け、インターンシップに参加したり、早期選考を獲得したりしたい。また、就職活動に有利になるような課外活動や学業については力を入れたい。 <文系男子>
- 業界を絞りきれていないため、業界を絞ったのち、来年は志望企業に注力したい。 <文系女子>
- 早期選考に向けて対策を進めながらも、別の視点でも業界を考えてみたい。 <文系女子>
- 第一志望企業群の選考が始まるため、その前に企業理解や面接練習の機会を増やしたい。 <理系女子>
- ウェブテスト対策や面接対策の質を上げていきたいと考えている。 <文系男子>
- 志望業界は決まっているので深く理解していくことに時間を使いたい。 <理系女子>
- 自分が志望しているところが、本当にイメージしているものと同じなのかちゃんと調べたい。 <文系女子>
- この時期は学業が多忙であるために就活に割ける時間が少ない。 <文系男子>
- 研究から手を離せないため、選考が始まるまではあくまで研究第一に、無理のない範囲で続けていきたい。 <理系女子>